



『天然磁石』

子供向けの本『砂鉄とじしゃくのなぞ』を読んでいる時、かなり大きな釘をひっつけた天然の磁石の写真を発見、岡山県の柵原（やなはら）産と書かれていました。ぜひ入手したいと思いましたが、すでに閉山後で不可でした。この鉱山では硫化鉄鉱（りゅうかてっこう）を掘り出し硫黄（いおう）の原料としていたのですが、鉱脈（こうみゃく）の中の含まれる不要な磁鉄鉱を磁石でひっつけ取り除いていました。その一部が天然磁石だったのです。ちなみに、硫化鉄鉱は鉄分を含んでいますが磁石にはつかないのです。

博物館に電話するなど色々と試みましたが、なかなか入手出来ません。あるとき、生野鉱山跡にある生野鉱物館（日本最大の鉱物博物館：三菱マテリアル（株））の売店で『楽しい鉱物図鑑』を見つけました。金色・黄色・銀色・青色、色々な色の鉱物。立方体・円柱・六角錐・花びら状、自然のものとは思われない綺麗な形の鉱石達。本当に見て楽しい図鑑でした。その巻末に著者の電話番号があり『五寸釘がひっつくような磁石はありませんか』と問い合わせ『そんな力の強いものではありませんが、これではどうでしょう。』と送られて来たのがこの磁石です。10年来の夢が叶い、やっと天然磁石が手に入りました。アメリカ、ユタ州産、大きさ190mm x 130 mm x 80 mm、重さ 5.5 kg

2000年秋、ホームページ『むらの鍛冶屋』の中に天然磁石の写真を見つけた担当者から電話がありました。『私どもは（株）ベネッセコーポレーションと言いますが、「チャレンジ3年生」の中に磁石の記事を掲載する予定です。是非、天然磁石を貸し出して頂けませんか。』了解しお送りしました。2001年1月号に5ページにわたって掲載されました。この本に取り上げられていた磁石は住友特殊金属（株）の強力磁石やキップ、液体磁石、磁性細菌などでした。



柵原（やなはら）鉱山 （岡山県久米郡美咲町）

柵原鉱山は、東洋一の硫化鉄鉱を産する鉱山として古くから栄えてきました。昭和40年頃最盛期には年間90万トン以上もの鉱石を産出していましたが、海外から安い硫化鉄が輸入されるようになると、次第に需要が減少。そして平成3年3月、時代の流れとともに閉山の時を迎え、75年間の歴史に幕を降ろしました。硫化鉄鉱から硫酸原料になる硫黄を取り出していました。

参考図書

『砂鉄とじしゃくのなぞ』	板倉聖宜	福音館書店	1980年
『チャレンジ3年生』		(株)ベネッセコーポレーション	2001年
『楽しい鉱物図鑑』	堀 秀道	(株)草思社	1992年



ホームページと電子メールをご利用ください。

URL <http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>
<http://www.kanamonoya.co.jp/bike/ryou@memenet.or.jp>

むらの鍛冶屋®



「鉄のふしぎ博物館」 7月20日開館予定

何でもお気軽にお尋ねください!!